つかさ会　会報

2024.10 月

会員の皆さん、こんにちは。10 月に入っても、例年よりも暖かい日が続いていました。全国的に 10 月下旬でも 25℃を超える夏日が多く見られましたが、やっと涼しくなりつつあり、秋の深まりが待ち遠しい気持ちです。

さて、10 月 20 日(日)には『歩いて学ぶ 糖尿病ウォークラリー in 岐阜 2024』が開催されました。例年は関市の百年公園にて開催しておりましたが、今年は岐阜市の岐阜公園に場所を移しての開催となりました。日差しが強く暑さを感じる天候でしたが、大きなトラブルもなく無事に終了いたしました。ご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

また、今年も「全国糖尿病週間」が近づいてまいりました。毎年、11 月 14 日を含む 1 週間は「全国糖尿病週間」とされ、糖尿病に関する知識を深める機会となっています。今年は 11 月 11 日(月)～15 日(金)に、大学病院内にて糖尿病の知識、治療に関する掲示を行います。11 日(月)には「災害」について考える というテーマで講演会も開催いたします。「糖尿病」と「災害」について、さまざまな職種からお話をお届けしますので、ぜひご参加ください。

では、今月のさかえの読みどころを当科 本田先生に紹介していただきます。

つかさ会のみなさん、こんにちは。10 月号の紹介を担当します、岐阜大学医学部附属病院　免疫・内分泌内科/糖尿病代謝内科の本田です。今年も長く続いた猛暑が落ち着いてきましたね。朝晩は冷え込むので、風邪をひいたりしていらっしゃらないでしょうか？

さて、今月号の「さかえ」ですが、特集 1「時には骨の話を(P.5)」、特集 2「インスリン治療しながら赤ちゃんを出産した話(P.33)」となっています。特集 1 では、身近な問題である骨粗鬆症について、最新の情報を含めてわかりやすく解説されています。骨粗鬆症があることによって起こりやすくなる転倒や骨折は、要介護の原因として上位を占め、健康寿命を縮めることにつながります。そして、糖尿病は骨粗鬆症の危険因子の 1 つであることがわかっています。骨粗鬆症の進行を予防するために注意することや、糖尿病治療との関連について記載されていますので、是非ご覧ください。特集 2 は、17 歳で 1 型糖尿病を発症された女性が、3 人のお子さんを妊娠、出産されたお話です。その他、特別企画として低血糖恐怖症の章もあります。低血糖を経験された患者さんが、それがトラウマになってしまって、治療や生活に影響を及ぼしてしまう、という内容です。同じような思いを持たれている患者さんもいらっしゃるのではないでしょうか。ぜひ一読していただけたらと思います。

今月号の『さかえ』お楽しみいただけましたでしょうか。食欲の秋です！果物など、おいしいものの誘惑の多い季節となりました。秋から冬にかけは血糖マネジメントに難渋する方も多いです。食べ過ぎには十分注意して、過ごしましょう。